

大洋デパート火災 - 西日本防災システム

火災は、1973年(昭和48年)11月29日午後1時15分頃に、熊本県熊本市中央区下通1丁目3番10号の百貨店**大洋デパート**(鉄筋コンクリート造地上13階、地下1階建て)で発生しました。

火災発生時は隣接する櫻井総本店ビル3階から8階への増築および改装工事中で、さらに、年末商戦に向けて、店内がかなり混雑している状況だったようです。出火原因は、タバコの火の不始末か放火か、または改装工事中の火花なのか、様々な憶測がされましたが、現在に至るまで原因は特定されていません。

出火場所は、2階から3階への階段の踊り場の段ボール箱と言われています。パート店員が階段シャッター前の天井付近に煙を発見し他の店員に連絡。4.5名が現場に駆け付けましたが、消火ホースは水圧が足りず、消火器は薬剤が放出されず残っていたようです。1階からバケツ20杯ほどの水を運び消火を試みましたが消火失敗。階段室の防火シャッターの操作ボタンを押すとゆるやかに降下したものの、シャッター前に座布団が高く積まれており、これらに引火したようです。3階は寝具売り場で、大量の可燃物があり、火勢が強まりました。階段部分が、従業員の私物置き場兼、通路となり、大量の荷物で通路幅が狭くなり避難を困難にしたようです。さらにスプリンクラー消火設備などの消防用設備が工事中で作動せず、被害を大きくしたようです。避難が始まってまもなく停電したとの証言が多くあります。火災の拡大に伴い、布団類の燃焼によるすすが大量に出て現場一帯が暗闇と化したようです。

この大火災を通報したのはデパート関係者ではなく、道路向かいの理髪店主だったそうです。店内の火災現場では3階寝具売り場からの知らせで主任が119番にダイヤルしたと証言していますが、消防機関には通じていなかったようです。店内の緊急放送は上司の許可がある手段で、上司との連絡がとれず、手間取ったようです。電話交換手の部屋からは、3階の様子が判断できますが、交換手は従業員階段から逃げてしまったようです。

従業員の誘導で従業員60人・客70人ほどが屋上に避難して難を逃れました。はしごで救出された人数は67人。また、増築用の足場を利用して25名が救出されました。この火災で3階以上延べ**13,500㎡**を全焼し、店内の客や従業員、工事関係者ら**103人**が死亡、**124人**が重軽傷を負うという、日本のビル火災ではこの前年に発生した大阪市の千日デパート火災(1972年5月13日)に次ぐ大惨事となってしまいました。

※亡くなられたかたの詳細

デパート従業員：男性 10名、女性 36名 計**46名**
派遣社員：女性 3名、工事関係者：男性 3名 計**6名**
買い物客：男性 16名、女性 32名 計**48名**
負傷者：男性 43名、女性 77名 計**120名**

※亡くなられたかたの確認数(熊本県警察本部 12月13日午後5時)

総数：103名(男性30名、女性73名、)

打ち分け：デパート従業員：51名(男性10名、女性41名) 客：51名(男性20名、女性31名)

不明：1名(女性1)

※負傷者確認数：126名(入院24名、帰宅102名)

打ち分け：デパート従業員：79名 客：22名 その他：25名

このような大きな 悲慘な 火災だったんですね！

前年の1972年に発生した千日デパート火災と、この大洋デパート火災を精査した結果、建物がそれぞれ**既存不適格**であったことが判明したため、建築基準法及び消防法の大幅な改正が実施されました。



西日本防災システム

NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ

